

えんがるロックバレースキー場

スキー場利用規約

1. 目的

当規約は、当社の運営するえんがるロックバレースキー場（以下「スキー場」といいます。）利用者の安全利用の維持向上を目的とし、スキー場の利用者（以下「利用者」といいます。）には当規約が適用されるものとし、利用者は当規約に従ってスキー場を利用するものとします。

当規約に定めのない事項については、関係法令の定めによるものとし、関係法令に定めがない事項については「スノースポーツ安全基準」（全国スキー安全対策協議会・2013年10月改訂版）および社会通念上の行動に準じるものとします。

2. 行動規則

スキー・スノーボードおよびその他の滑走用具（以下「スキー等」といいます。）には、さまざまな特有の危険があり、特にスピードを伴うことから、利用者各人の行動には、自分自身の事故防止と他の利用者に対する安全に対して責任ある行動が求められます。ご自身を含め、全ての利用者が互いに安全かつ快適に過ごせるよう、特に、次の事項には、ご注意ください。

（1）他の利用者への危険行為の禁止

スキー場では、決して他の利用者の身体や持ち物に危害を与えないでください。

（2）滑降時の一般的な注意

常に前方をよく見て滑り、体調・技能・地形・天候・雪質・混雑等の状況に合わせてスピードをコントロールし、いつでも他の利用者や物事を避けられるような滑り方を選んでください。

（3）先行者への配慮

後方や上方から滑ってゆく人は、先を滑っている他の利用者の邪魔をしたり、危険がないように進路・速度を選んでください。

（4）追い越し

追い越すときは、追い越される他の利用者がどのような行動を取っても危険がないよう十分な間隔を空けて追い越してください。

（5）周囲の確認

コースに合流するときや、斜面を横切るとき、また滑り始めるときには、前方・後方、左右に注意して、自分自身にも他の利用者にも危険のないよう確かめてください。

（6）コースをふさぐ行為の禁止

コース内で不用意に立ち止まらないうでください。狭い所や、上方からの見通しがきかない場所は特に危険です。また、転倒した時は出来るだけ速やかにコースをあけてください。

（7）コース利用時の注意事項

コース内を登る時、歩く時、また立ち止まる時は、コースの端を利用してください。また、視界が悪い場合には、上方から滑ってくる他の利用者特に注意をしてください。

（8）流れ止めの装着

斜面で流れたとき他の利用者に危険を与えるおそれがある用具には、流れないように工夫された装置をつけてください。

（9）標識や警告・指示の遵守

標識や掲示物・放送等スキー場の警告に注意し、スキーパトロールやスキー場係員の指示に従い、事故防止に努めてください。

（10）相互扶助及び協力義務

事故に遭遇した場合は、自分自身がその事故の当事者かどうかにかかわらず、救急活動やスキー場係員への通報にご協力ください。また、その際、当事者・目撃者を問わず、身元を確認させていただくことがあります。

（11）荷物の管理

スキー場施設内外問わず、通路・共有スペース・その他の場所に荷物を放置しないでください。所定の棚およびコインロッカーをご利用ください。なお、保管物の破損・損傷・紛失等に関しては、当施設は一切責任を負いかねます。但し、当施設に明らかな過失がある場合は、その限りではありません。また、利用者同士でのトラブルについては、当施設・スタッフは責任を負いかねますので、当事者同士で解決して下さい。

（12）リフトの利用

曲がる・止まるの操作がご自身でできるようになってから、リフトにご乗車下さい。

リフト利用の際は、必ず、ビンディングのついた滑走用具を装着して下さい。

また、未就学児だけのリフトの乗車はできません。必ず保護者または引率者の方と一緒にご乗車ください。（未就学児1名につき保護者または引率者1名必要となります。）

3. 注意事項

スキー等をする場合には、次のような危険に出遭うことがあります。利用者はこれをよく理解のうえ、注意深く行動し、安全で快適なスキー場利用にご協力ください。

（1）降雪・雨・強風・濃霧など、天候による危険

（2）崖・急斜面・凹凸など、地形による危険

（3）アイスバーン・深雪・クレパス・雪崩など、雪や氷の状態による危険

（4）岩石・茂み・切り株・立ち木・露出した地表など、自然の障害物による危険

（5）リフト支柱・造雪設備・建物など、人工の構造物による危険

（6）他の利用者との接近や衝突による危険

（7）自分自身の失敗による危険

（8）その他、これらに類する危険

4. 禁止事項

スキー場利用に関して次の事項を禁止といたします。

（1）閉鎖されたコースやコース外および立入禁止の区域へ進入すること

（2）他の利用者はもちろん、人工や自然の物体に接近して滑走すること

（3）リフトの運行を妨げる行為をすること

（4）雪上車両に接近すること

（5）表示物・掲示物・標識類を毀損すること

（6）空き缶・煙草の吸殻・その他の物品・ゴミ等を所定の場所以外に捨てたり、放置したりすること

（7）いたずらに、コースの中を靴足のままで歩くこと

（8）ペット等の動物や可燃物・刃物等の危険物をスキー場敷地内に持ち込むこと

（9）飲酒や薬物の影響その他の事情により、心身が正常でない状態でスキー場へ入ること

（10）当スキー場の許可なく営業、宣伝、広告、勧誘、営利を目的とする行為またはその準備を目的とした行為（宣伝、広告、勧誘については、非営利であっても禁止とする）

（11）法令等で禁止されたこと

（12）他の利用者や自分自身の身体、財産を脅かすことや当スキー場の営業を妨害する行為及び信用、肖像、名誉等を毀損すること

（13）未就学児だけでスキー場を利用すること

（14）滑走用具をつけずにリフト乗車及びグレンデ（そりのりばを除く）に進入すること

（15）スキー場、リフト、駐車場その他施設の上空及び周辺、または影響を及ぼす可能性がある場所でのドローン等の無線航空機（一部有線の物も含む）の使用や飛行（特別な許可がある場合を除く）

5. 賠償請求及び費用負担

（1）当社では、当規約並びにスキー場が定める行動規則及び注意・禁止事項（以下「当規約等」といいます。）に違反した行為によって発生した一切の事故の責任を負いかねるとともに、当社に損害又は賠償費用が発生した場合には、その事故を発生させた利用者に対してこの損害の賠償又は発生した費用を請求させていただきます。

（2）当規約等に違反し、スキー場管理区域の外に出た利用者又はその知人等から当社に遭難救助の申告があったときは、当社単独又は当社と関係官公庁等が協力して救助活動を行います。当社は救助活動終了後、捜索・救助に要した人件費、雪上機器費用、索道運行費用、照明電気費用、その他発生した費用の一切を当該利用者に請求させていただきます。

6. 不可効力

天災その他の不可抗力に基づく事由またはリフトの整備状況により、利用者の安全が確保できないおそれがある場合には、スキー場又はリフトの全部又は一部の営業を休止させていただくことがあります。

7. 拒否事由

「暴力団員による不当な行為の防止等に関する法律」（平成4年3月1日施行）による指定暴力団及び指定暴力団員並びに反社会団体及び反社会団体員等（暴力団及び過激行動団体等ならびにその構成員）の方々のご利用は、固くお断りいたします。

8. 管轄裁判所

当スキー場の利用について紛争が生じた際の管轄裁判所は、当スキー場の所在地を管轄する裁判所とさせていただきます。

9. 当規約の変更

当社は、必要と認めた場合、当規約の改定を行うことができます。改定を実施する場合は、事前に当規約を変更する旨及び変更後の規約の内容並びにその効力発生日を当社ホームページにおいて公表するものとします。

10. その他

（1）スキー場の利用に関して、当規約に定めのない事項または当規約に疑義が生じた場合には、利用者はスキー場の指示に従うものとします。なお、スキー場の係員またはグレンデパトロール員の指示に従っていただけなかった場合、スキー場の利用を中止させていただく場合があります。

（2）グレンデ状況や気象状況、施設の都合等により営業時間を変更、および営業を休止または中止させていただく場合があります。



道の駅遠軽
森のオホーツク

